

第 2 章 食品製造業の生産動向

利用者のために

食品製造業 総合

- 1 畜産食料品
- 2 水産食料品
- 3 農産食料品
- 4 製穀粉・同加工品
- 5 食用油・同加工品
- 6 砂糖
- 7 調味料
- 8 飲料
- 9 菓子
- 10 調理食品
- 11 酒類

(参考) 主要品目の生産量の推移

(平成 24 年～令和 5 年)

利用者のために

1 食品製造業の生産量、出荷量、在庫量の収集

(1)調査の対象

食品製造業の生産量、出荷量、在庫量の把握については、下表のとおり、各部門の品目に関して標本調査及び既存調査資料の収集により行っている。標本調査は、食品需給研究センターがアンケート等の調査により実施したものである。既存調査資料は、農林水産省や関係団体等で実施された調査資料を収集し、活用したものである。

部 門	本調査の対象品目 (標本調査)	既存調査資料の収集品目 (農林水産省、業界団体、国税庁等)
1 畜産加工品	はっ酵乳・乳酸菌飲料類	食肉加工品、食肉缶・びん詰、牛乳・乳製品
2 水産加工品	水産練製品	水産缶・びん詰
3 農産加工品	野菜・果実漬物 乾燥野菜	野菜缶・びん詰、果実缶・びん詰、ジャム類、 トマト加工品
4 製穀粉・同加工品	製粉・穀粉、パン類、めん類、マカロニ類 プレミックス、パン粉、でん粉	
5 食用油・同加工品		植物油脂・加工油脂
6 砂糖		精製糖
7 調味料	みそ、しょうゆ等	マヨネーズ、ドレッシング類
8 飲料	コーヒー、紅茶、緑茶、ウーロン茶、麦茶、 その他の茶系飲料	炭酸飲料、果実飲料、トマト飲料
9 菓子	ビスケット、米菓	
10 調理食品	加工米飯	調理冷凍食品、冷凍菓子、調理缶・びん詰、 レトルトパウチ
11 酒類		清酒、合成清酒、みりん、焼酎、ビール、 果実酒、スピリッツ、リキュール、雑酒
12 その他の食品		包装もち、植物油粕

(2)標本調査の概要

調査対象	調査対象企業数 550 社
調査時期	令和 5 年 4 月～令和 6 年 3 月
調査方法	郵送・F A X・メール・電話による聞き取り
回答企業数	295 社（回答率約 53.6%）

2 食品製造業の生産指数、出荷指数、在庫指数の作成基準

(1) 食品製造業生産指数

食品製造業生産指数のウェイトについては、「令和 3 年経済センサス-活動調査(経済産業省)」の食料品製造業の出荷額を基準として作成している。

ウェイトは、各部門別、業種別、品目別のウェイトを算出するが、調査資料のない品目のウェイトは、原則として、調査品目にふくらましを行い、部門及び全体の推計を行う(ふくらましウェイト方式)。

指数算出時点においてデータがすべて揃わない場合は、前年と同水準であるとする仮定のもと、該当する欠損値に前年の数値を用いて指数を算出している。

(2) 食品製造業出荷指数

食品製造業出荷指数のウェイトについては、「令和 3 年経済センサス-活動調査(経済産業省)」の採用品目及び出荷額を基準に作成している。

(3) 食品製造業在庫指数

食品製造業在庫指数のウェイトについては、「令和 3 年経済センサス-活動調査(経済産業省)」の採用品目及び出荷額を基準に作成している。

3 指数の計算方法

指数の計算方法は、次のとおり。

(1) 指数算式

指数計算は対象品目別に基準数量で比較月の生産量を除し、品目指数を計算し、次にそれらの品目指数を業種別、部門別、さらに総合につき品目ウェイトで加重平均する。基準数量と品目ウェイトはあらかじめ算定し、固定しておくので、変化するのは月々の生産量のみである(ラスパイレス算式)。この指数算式は次のごとくである。

$$Q_t = \frac{\sum_{i=1}^n \frac{q_{ti}}{q_{0i}} w_{0i}}{\sum_{i=1}^n w_{0i}} \times 100.0$$

q : 生産量
 w : 生産額ウェイト
 i : 採用品目を示す添字
 0 : 基準時を示す添字
 t : 比較時を示す添字

生産指数の基準年は令和 2 年であり、基準数量は対象品目ごとの令和 2 年月平均生産数量である。指数値は令和 2 年月平均の比例数である。出荷指数と在庫指数についても同様の指数算式で行う。

(2) 指数改定

指数は、基準時から遠ざかるに従い新製品の登場、製品の品質変化、相対価格の変化等によって採用品目の代表性、ウェイト構成の妥当性が不安定になる。このため5年毎に基準時を移行し、改めて選定された採用品目と再計算されたウェイトによる改定基準を作成する必要がある。

(3) 用語の解説

①暫定値：各総合指数を推計する際、現在の使用データが速報値であり、今後確定値に変更されるデータについては、暫定値としている。

②寄与度：他の内訳が変化しないとした場合に特定の内訳の変化が全体をどの程度の割合で変化させたかを表している。

$$\begin{aligned} \text{対前年増減寄与度} &= \text{各部門指数（当年指数－前年指数）} \times \text{ウェイト} \\ &\div \left(\text{総合指数（前年指数）} \times \text{ウェイト} \right) \times 100.0 \end{aligned}$$

③本報告書では上昇、低下、増加、減少の表現区分は次のようにしている。

前年並み	： ±1%未満
わずかに	： ±1～3%未満
やや	： ±3～6%未満
かなりの程度	： ±6～11%未満
かなり大きく	： ±11～16%未満
大幅に	： ±16 %以上

食品製造業 総合

(1) 生産指数

令和5年の食品製造業（総合）の生産指数は99.7で、対前年比0.1%と前年並み

令和5年の食品製造業（総合）の生産指数（令和2年=100、暫定値）は99.7で、対前年比0.1%と前年並みとなった。うち、飲料、酒類を除いた加工食品の生産指数（令和2年=100、暫定値）は99.0で、対前年比▲1.0%とわずかに低下した。なお、近年の食品製造業（総合）の生産指数の推移についてみると、平成29年以降低下傾向で推移している（図2-1）。

対前年比を部門別にみると、水産食料品がかなりの程度上昇し、酒類はやや上昇し、調理食品はわずかに上昇した。一方、食用油・同加工品及び砂糖がかなりの程度低下し、畜産食料品、農産食料品、調味料及びその他食品はやや低下し、菓子はわずかに低下した。また、製穀粉・同加工品及び飲料は前年並みとなった。なお、食品製造業（総合）の生産指数の対前年比に対する寄与を部門別にみると、水産食料品、製穀粉・同加工品、調理食品及び酒類はプラスに、畜産食料品、農産食料品、食用油・同加工品、調味料及び菓子はマイナスであった（図2-2、表2-1）。

図2-1 食品製造業の生産指数の推移

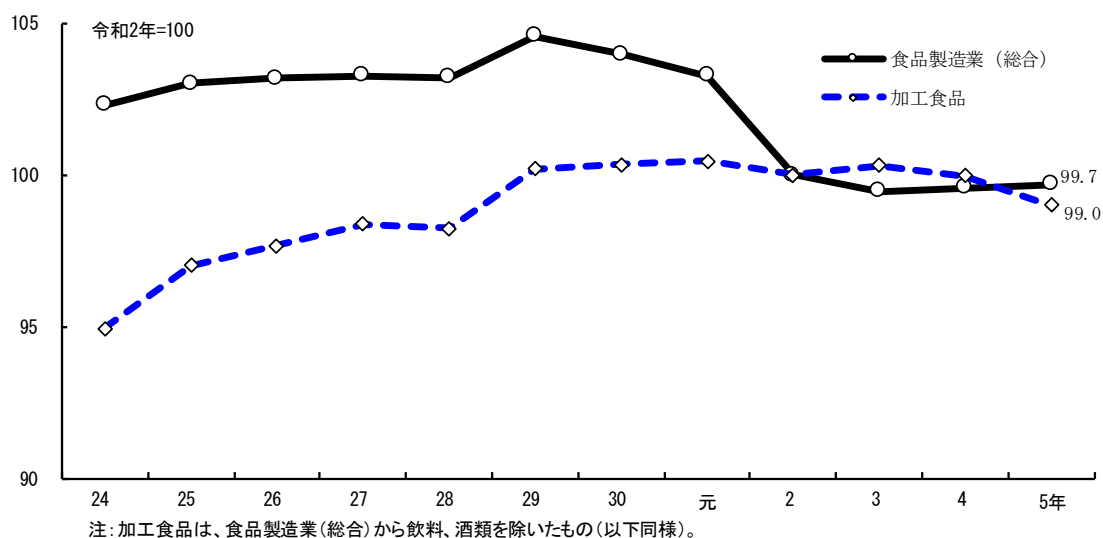


図 2-2 食品製造業の生産指数の対前年増減率、寄与度

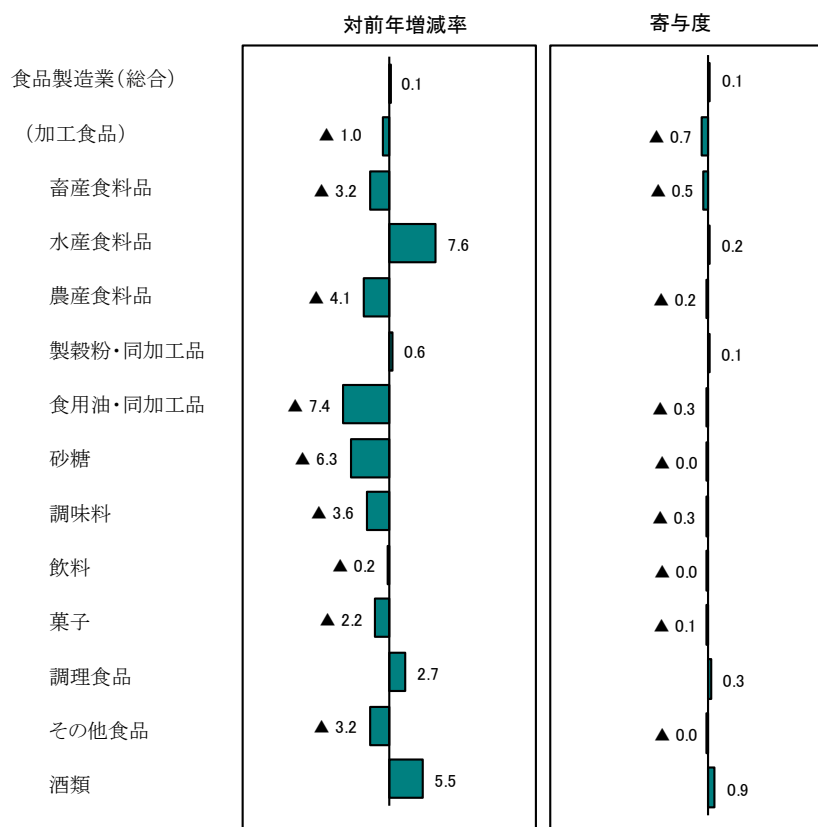


表 2-1 食品製造業の生産指数の推移

	ウェイト (令和2年)	指数 (令和2年=100)				対前年増減率 (%)				寄与度 5年/4年
		令和2年	3年	4年	5年	2年	3年	4年	5年	
食品製造業(総合)	10,000.0	100.0	99.5	99.6	99.7	▲ 3.2	▲ 0.5	0.1	0.1	0.1
(加工食品)	7,455.1	100.0	100.3	100.0	99.0	▲ 0.5	0.3	▲ 0.3	▲ 1.0	▲ 0.7
畜産食料品	1,645.8	100.0	101.2	100.7	97.5	0.1	1.2	▲ 0.4	▲ 3.2	▲ 0.5
水産食料品	226.5	100.0	100.5	98.0	105.5	▲ 9.9	0.5	▲ 2.4	7.6	0.2
農産食料品	368.2	100.0	100.7	101.1	97.0	3.8	0.7	0.3	▲ 4.1	▲ 0.2
製穀粉・同加工品	2,348.5	100.0	99.3	98.5	99.0	▲ 0.1	▲ 0.7	▲ 0.8	0.6	0.1
食用油・同加工品	379.2	100.0	100.1	96.5	89.4	▲ 4.0	0.1	▲ 3.5	▲ 7.4	▲ 0.3
砂糖	15.8	100.0	101.8	104.2	97.7	▲ 7.7	1.8	2.4	▲ 6.3	▲ 0.0
調味料	783.5	100.0	101.1	98.0	94.5	▲ 2.0	1.1	▲ 3.0	▲ 3.6	▲ 0.3
飲料	990.9	100.0	96.9	97.0	96.8	▲ 8.7	▲ 3.1	0.1	▲ 0.2	▲ 0.0
菓子	440.7	100.0	100.0	97.9	95.7	▲ 0.3	0.0	▲ 2.1	▲ 2.2	▲ 0.1
調理食品	1,166.4	100.0	100.7	105.0	107.8	1.0	0.7	4.3	2.7	0.3
その他食品	80.4	100.0	102.4	103.7	100.5	▲ 1.0	2.4	1.3	▲ 3.2	▲ 0.0
酒類	1,553.9	100.0	96.9	99.3	104.8	▲ 11.4	▲ 3.1	2.5	5.5	0.9

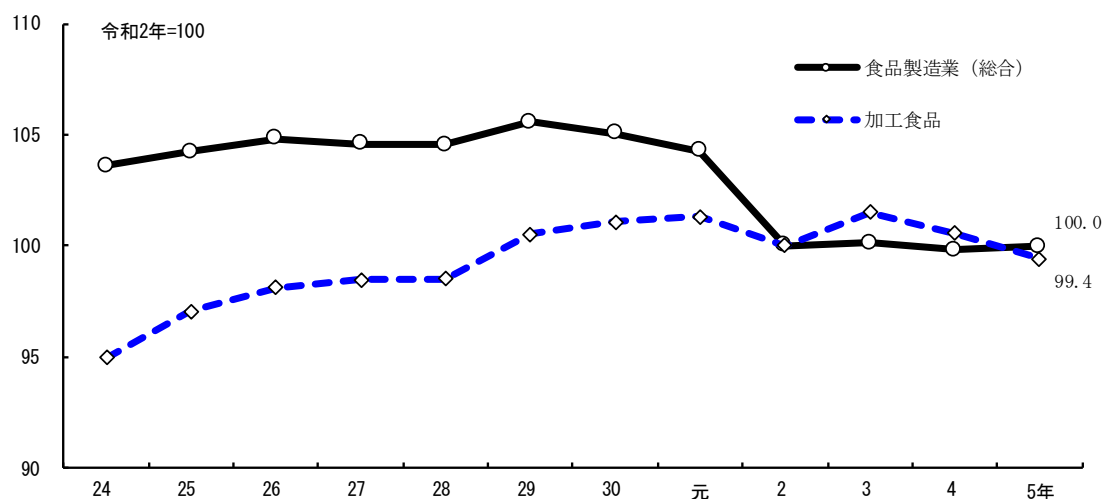
(2) 出荷指数

令和5年の食品製造業（総合）の出荷指数は100.0で、対前年比0.2%と前年並み

令和5年の食品製造業（総合）の出荷指数（令和2年=100）は100.0で、対前年比0.2%と前年並みとなった。うち、加工食品の出荷指数（令和2年=100）は99.4で、対前年比▲1.1%とわずかに低下した（図2-3）。

対前年比を部門別にみると、水産食料品がかなりの程度上昇し、酒類はやや上昇し、調理食品はわずかに上昇した。一方、食用油・同加工品及び砂糖がかなりの程度低下し、畜産食料品、農産食料品及びその他食品はやや低下し、調味料及び菓子はずかに低下した。また、製穀粉・同加工品及び飲料は前年並みとなった。なお、食品製造業（総合）の出荷指数の対前年比に対する寄与を部門別にみると、水産食料品、調理食品及び酒類はプラスに、畜産食料品、農産食料品、製穀粉・同加工品、食用油・同加工品及び菓子はマイナスであった（図2-4、表2-2）。

図2-3 食品製造業の出荷指数の推移



注：食品製造業（食品）は、食品製造業（総合）から飲料、酒類を除いたもの

図 2-4 食品製造業の出荷指数の対前年増減率、寄与度

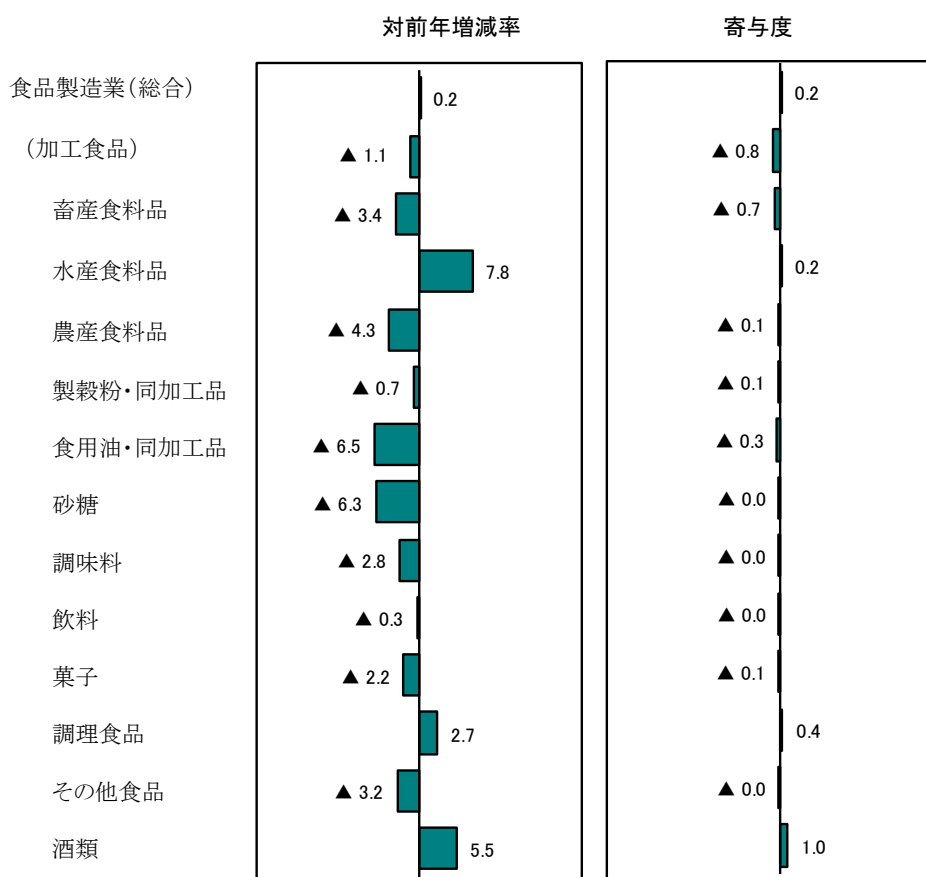


表 2-2 食品製造業の出荷指数の推移

	ウェイト (令和2年)	指数 (令和2年=100)				対前年増減率 (%)				寄与度
		令和2年	3年	4年	5年	2年	3年	4年	5年	5年/4年
食品製造業(総合)	10,000.0	100.0	100.1	99.8	100.0	▲ 4.1	0.1	▲ 0.3	0.2	0.2
(加工食品)	7,134.3	100.0	101.5	100.6	99.4	▲ 1.3	1.5	▲ 0.9	▲ 1.1	▲ 0.8
畜産食料品	1,941.3	100.0	101.4	101.0	97.6	0.2	1.4	▲ 0.4	▲ 3.4	▲ 0.7
水産食料品	267.2	100.0	100.4	97.9	105.5	▲ 9.9	0.4	▲ 2.5	7.8	0.2
農産食料品	280.3	100.0	103.2	103.1	98.6	3.3	3.2	▲ 0.1	▲ 4.3	▲ 0.1
製穀粉・同加工品	2,007.4	100.0	103.0	98.8	98.1	▲ 3.1	3.0	▲ 4.1	▲ 0.7	▲ 0.1
食用油・同加工品	447.3	100.0	100.2	96.0	89.7	▲ 3.8	0.2	▲ 4.2	▲ 6.5	▲ 0.3
砂糖	18.6	100.0	101.8	104.2	97.7	▲ 7.7	1.8	2.4	▲ 6.3	▲ 0.0
調味料	181.7	100.0	99.0	99.4	96.6	▲ 2.9	▲ 1.0	0.4	▲ 2.8	▲ 0.0
飲料	1,032.8	100.0	96.4	95.4	95.1	▲ 8.7	▲ 3.6	▲ 1.0	▲ 0.3	▲ 0.0
菓子	519.8	100.0	100.0	97.9	95.7	▲ 0.3	0.0	▲ 2.1	▲ 2.2	▲ 0.1
調理食品	1,375.9	100.0	100.7	105.0	107.8	1.0	0.7	4.3	2.7	0.4
その他食品	94.8	100.0	102.1	103.6	100.2	▲ 0.8	2.1	1.4	▲ 3.2	▲ 0.0
酒類	1,832.9	100.0	96.9	99.3	104.8	▲ 11.4	▲ 3.1	2.5	5.5	1.0

(3)在庫指数

令和5年の食品製造業（総合）の在庫指数は100.6で、対前年比▲7.1%とかなりの程度低下

令和5年の食品製造業（総合）の在庫指数（令和2年=100）は100.6で、対前年比▲7.1%とかなりの程度低下した。うち、加工食品の在庫指数（令和2年=100）は106.9で、対前年比▲7.3%とかなりの程度低下した（図2-5）。

部門別に対前年比をみると、食用油・同加工品が大幅に低下し、畜産食料品はかなり大きく低下し、製穀粉・同加工品及び飲料はかなりの程度低下し、農産食料品はわずかに低下した。一方、その他食品がわずかに上昇した。また、水産食料品は前年並みとなった（図2-6、表2-3）。

図2-5 食品製造業の在庫指数の推移

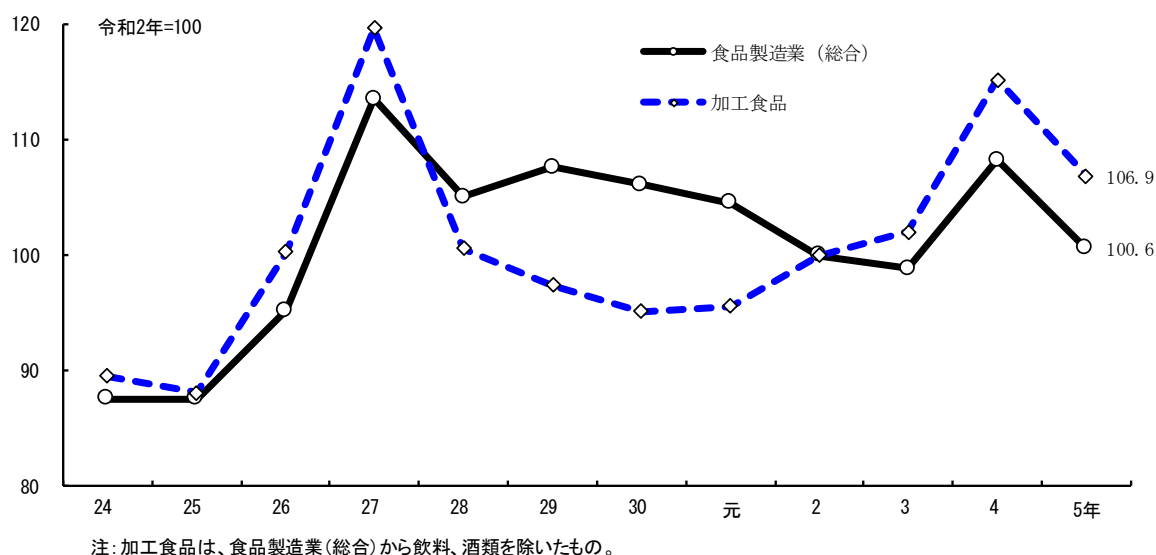


図 2-6 食品製造業の在庫指数の対前年増減率、寄与度

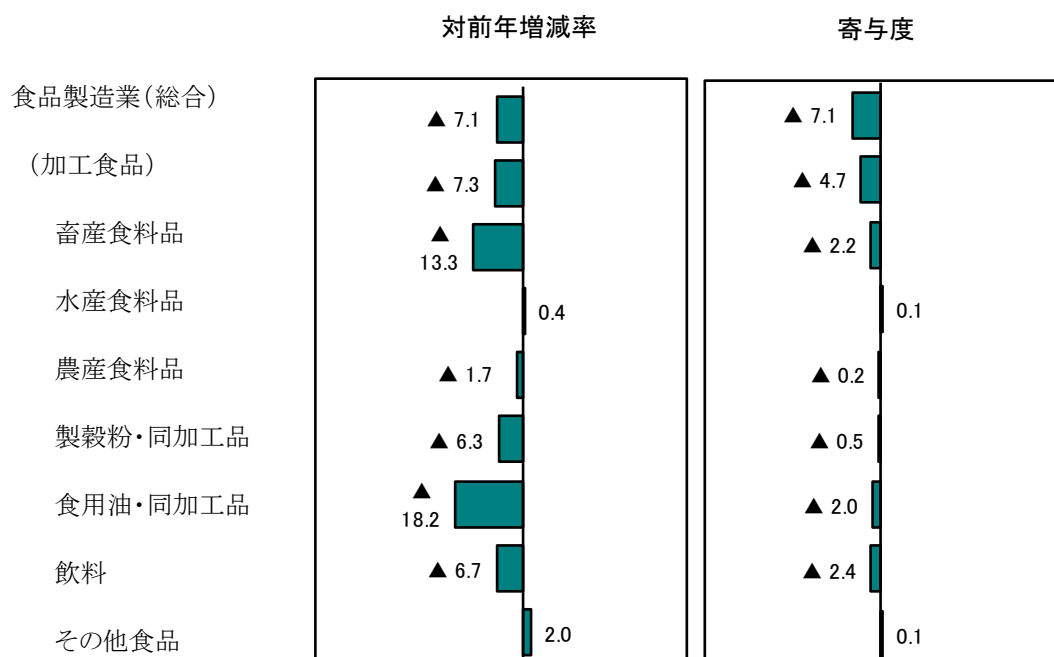


表 2-3 食品製造業の在庫指数の推移

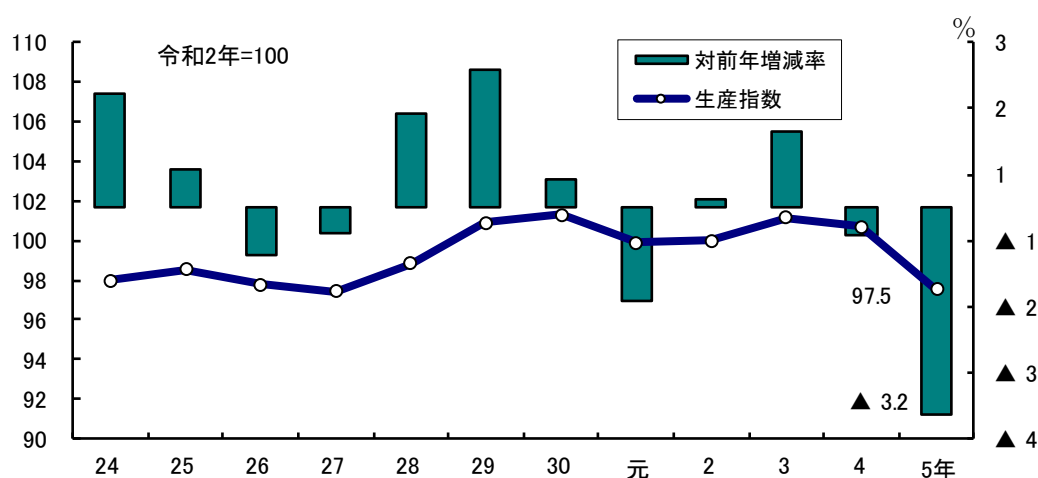
	ウェイト (令和2年)	指数 (令和2年=100)				対前年増減率 (%)				寄与度
		令和2年	3年	4年	5年	2年	3年	4年	5年	5年/4年
食品製造業(総合)	10,000.0	100.0	98.8	108.3	100.6	▲ 4.4	▲ 1.2	9.5	▲ 7.1	▲ 7.1
(加工食品)	6,104.6	100.0	102.1	115.3	106.9	4.6	2.1	12.9	▲ 7.3	▲ 4.7
畜産食料品	1,464.5	100.0	104.4	123.6	107.1	28.7	4.4	18.4	▲ 13.3	▲ 2.2
水産食料品	1,328.0	100.0	109.1	128.0	128.5	1.7	9.1	17.4	0.4	0.1
農産食料品	1,021.6	100.0	99.7	99.7	98.0	0.1	▲ 0.3	0.0	▲ 1.7	▲ 0.2
製穀粉・同加工品	889.0	100.0	101.4	100.9	94.5	▲ 1.2	1.4	▲ 0.5	▲ 6.3	▲ 0.5
食用油・同加工品	957.5	100.0	91.5	121.1	99.1	▲ 2.6	▲ 8.5	32.3	▲ 18.2	▲ 2.0
飲料	3,895.4	100.0	93.8	97.3	90.7	▲ 15.7	▲ 6.2	3.7	▲ 6.7	▲ 2.4
その他食品	443.9	100.0	103.0	101.6	103.6	▲ 8.8	3.0	▲ 1.4	2.0	0.1

1 畜産食料品

令和5年の畜産食料品の生産指数（令和2年=100、暫定値）は97.5で、対前年比▲3.2%とやや低下した。なお、近年は横ばい傾向にあったが、4年以降低下で推移している（図2-7）。

対前年比を品目別にみると、乳飲料及びはっ酵乳・乳酸菌飲料はわずかに上昇した。一方、食肉缶・びん詰がかなり大きく低下し、乳製品はやや低下し、食肉加工品及び飲用牛乳等はわずかに低下した。なお、対前年比に対する寄与を品目別にみると、乳飲料及びはっ酵乳・乳酸菌飲料はプラスであり、一方、食肉加工品、食肉缶・びん詰、飲用牛乳等及び乳製品はマイナスであった（図2-8、表2-4）。

図2-7 畜産食料品の生産指数の推移



食肉加工品はわずかに低下、ハム類及びベーコン類は低下、ソーセージ類は前年並み

食肉加工品の生産量は52万6千トンで、生産指数は対前年比▲1.8%とわずかに低下した。内訳についてみると、ハム類の生産量は10万5千トンで、生産指数は対前年比▲2.9%とわずかに低下し、ベーコン類については生産量が9万2千トンで、生産指数は対前年比▲4.5%とやや低下した。また、ソーセージ類については生産量が30万8千トンで、生産指数は対前年比▲0.6%と前年並みとなった。

飲用牛乳等はわずかに低下、乳飲料及びはっ酵乳・乳酸菌飲料はわずかに上昇

飲用牛乳等の生産量は346万6千klで、生産指数は対前年比▲2.7%とわずかに低下した。乳飲料は106万9千klで、生産指数は対前年比2.3%とわずかに上昇した。また、はっ酵乳・乳酸菌飲料は177万3千klで、生産指数は対前年比1.2%とわずかに上昇した。

乳製品類はやや低下、バター、脱脂粉乳及びチーズはいずれもかなりの程度低下

乳製品類の生産量は55万2千トンで、生産指数は対前年比▲5.7%とやや低下した。内訳についてみると、バターの生産量は6万7千トンで、生産指数は対前年比▲10.3%かなりの程度低下した。脱脂粉乳の生産量は14万4千トンで、生産指数は対前年比▲8.7%とかなりの程度低下した。チーズの生産量は14万9千トンで、生産指数は対前年比▲7.1%とかなりの程度低下した。

下した。

図 2-8 畜産食料品の品目別生産指数の対前年増減率、寄与度

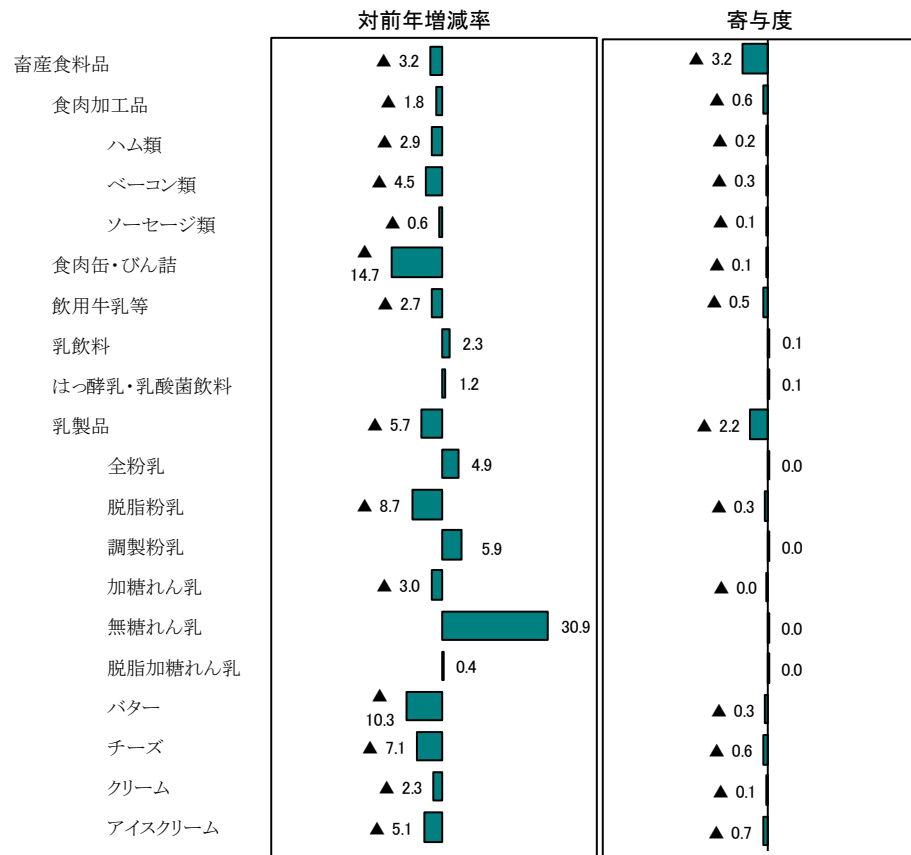


表 2-4 畜産食料品の品目別生産指数の推移

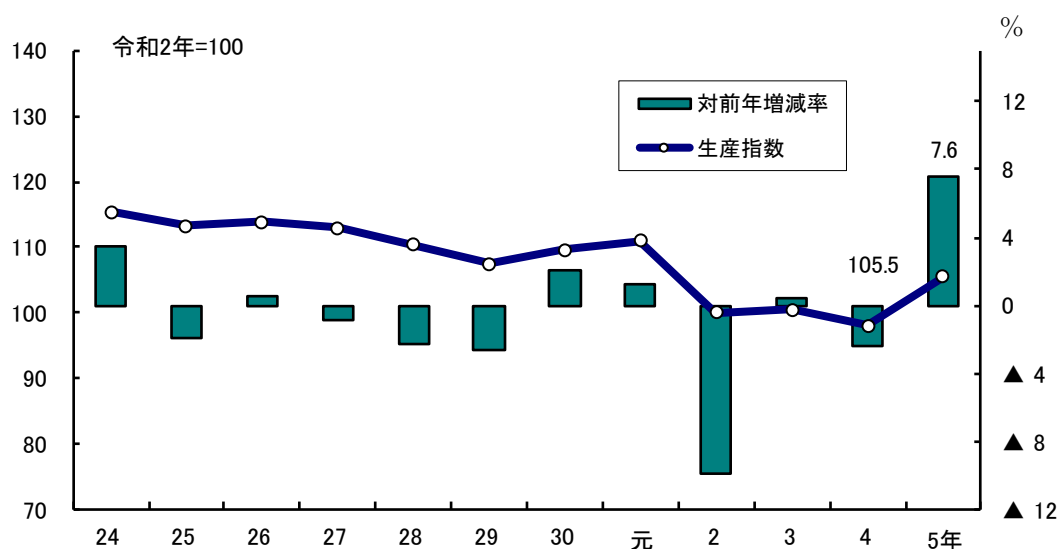
品 目	年 次 ウェイト (令和2年)	指数 (令和2年=100)				対前年増減率 (%)				寄与度 5年/4年
		令和2年	3年	4年	5年	2年	3年	4年	5年	
畜産食料品	1,645.8	100.0	101.2	100.7	97.5	0.1	1.2	▲ 0.4	▲ 3.2	▲ 3.2
食肉加工品	540.2	100.0	99.2	97.2	95.4	0.4	▲ 0.8	▲ 2.1	▲ 1.8	▲ 0.6
ハム類	114.8	100.0	97.6	96.3	93.5	▲ 0.2	▲ 2.4	▲ 1.4	▲ 2.9	▲ 0.2
ベーコン類	100.3	100.0	99.5	97.7	93.3	1.2	▲ 0.5	▲ 1.9	▲ 4.5	▲ 0.3
ソーセージ類	325.2	100.0	99.7	97.3	96.8	0.4	▲ 0.3	▲ 2.3	▲ 0.6	▲ 0.1
食肉缶・びん詰	10.1	100.0	81.9	85.6	73.0	▲ 7.8	▲ 18.1	4.5	▲ 14.7	▲ 0.1
飲用牛乳等	311.5	100.0	100.0	99.7	97.0	0.4	0.0	▲ 0.3	▲ 2.7	▲ 0.5
乳飲料	71.4	100.0	95.0	94.3	96.5	▲ 1.5	▲ 5.0	▲ 0.7	2.3	0.1
はっ酵乳・乳酸菌飲料	115.7	100.0	98.7	97.6	98.7	2.6	▲ 1.3	▲ 1.1	1.2	0.1
乳製品	596.8	100.0	105.0	106.1	100.0	▲ 0.4	5.0	1.0	▲ 5.7	▲ 2.2
全粉乳	3.7	100.0	98.8	110.5	116.0	▲ 9.3	▲ 1.2	11.9	4.9	0.0
脱脂粉乳	57.1	100.0	110.7	113.0	103.1	12.1	10.7	2.1	▲ 8.7	▲ 0.3
調製粉乳	11.5	100.0	92.7	100.1	106.1	3.3	▲ 7.3	8.1	5.9	0.0
加糖れん乳	12.4	100.0	101.1	102.6	99.5	▲ 11.3	1.1	1.5	▲ 3.0	▲ 0.0
無糖れん乳	0.2	100.0	96.7	82.3	107.7	▲ 7.2	▲ 3.3	▲ 14.9	30.9	0.0
脱脂加糖れん乳	1.4	100.0	97.6	97.0	97.4	▲ 13.3	▲ 2.4	▲ 0.6	0.4	0.0
バター	51.3	100.0	102.5	104.9	94.1	14.5	2.5	2.4	▲ 10.3	▲ 0.3
チーズ	139.3	100.0	104.4	100.2	93.0	2.8	4.4	▲ 4.0	▲ 7.1	▲ 0.6
クリーム	71.2	100.0	108.8	109.1	106.6	▲ 5.3	8.8	0.3	▲ 2.3	▲ 0.1
アイスクリーム	248.7	100.0	104.5	107.7	102.1	▲ 4.9	4.5	3.0	▲ 5.1	▲ 0.8

2 水産食料品

令和5年の水産食料品の生産指数（令和2年=100、暫定値）は105.5で、対前年比7.6%とかなりの程度上昇した。令和2年には感染症の影響により生産が大きく落ち込んだと見受けられるが、3年以降回復傾向にある（図2-9）。

対前年比を品目別にみると、ちくわ・かまぼこ類はかなり大きく上昇した。一方、水産缶・びん詰はやや低下した。なお、対前年比に対する寄与を品目別にみると、ちくわかまぼこ類はプラスであり、水産缶・びん詰はマイナスであった（図2-10、表2-5）。

図2-9 水産食料品の生産指数の推移



ちくわ・かまぼこ類はかなり大きく上昇、水産缶・びん詰はやや低下

ちくわ・かまぼこ類の生産量は46万2千トンで、生産指数は対前年比11.8%とかなり大きく上昇した。一方、水産缶・びん詰の生産量は8万6千トンで、生産指数は対前年比▲6.5%とやや低下した。

図2-10 水産食料品の品目別生産指数の対前年増減率、寄与度

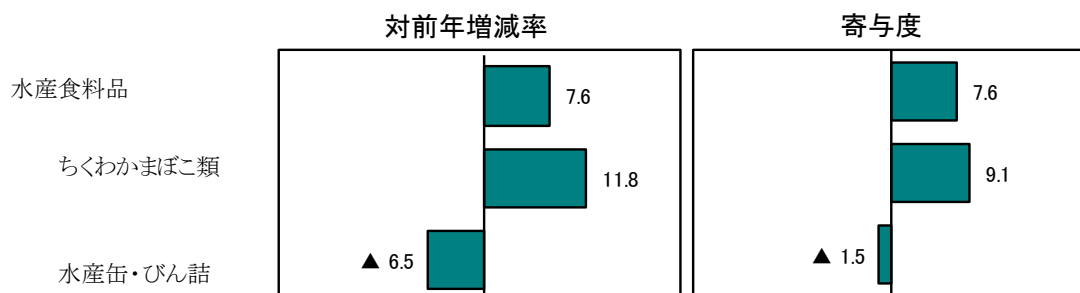


表2-5 水産食料品の品目別生産指数の推移

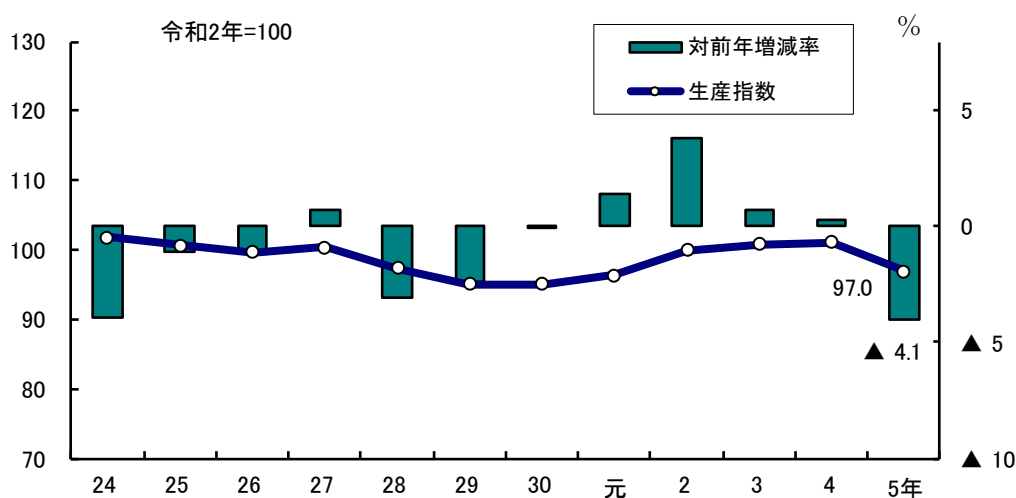
品目	年次 ウェイト (令和2年)	指数 (令和2年=100)				対前年増減率 (%)				寄与度 5年/4年
		令和2年	3年	4年	5年	2年	3年	4年	5年	
水産食料品	226.5	100.0	100.5	98.0	105.5	▲9.9	0.5	▲2.4	7.6	7.6
ちくわ・かまぼこ類	169.7	100.0	102.9	100.6	112.5	▲6.7	2.9	▲2.3	11.8	9.1
水産缶・びん詰	56.8	100.0	93.1	90.5	84.6	▲18.3	▲6.9	▲2.9	▲6.5	▲1.5

3 農産食料品

令和 5 年の農産食料品の生産指数（令和 2 年=100、暫定値）は 97.0 で、対前年比▲4.1%とやや低下した。なお、近年の推移は、平成 30 年以降上昇傾向で推移していたが、令和 5 年には低下に転じている（図 2-11）。

対前年比を品目別にみると、野菜・果実漬物はわずかに低下した。農産缶・びん詰はかなり大きく下し、トマト加工品はやや低下した。また、乾燥野菜は前年並みとなった。なお、対前年比に対する寄与を品目別にみると、野菜・果実漬物、農産缶・びん詰及びトマト加工品のいずれもマイナスであった（図 2-12、表 2-6）。

図 2-11 農産食料品の生産指数の推移



野菜・果実漬物はわずかに低下

野菜・果実漬物の生産量は 80 万 2 千トンで、生産指数は対前年比▲2.3%とわずかに低下した。内訳についてみると、塩漬類の生産量は 10 万 5 千トンで、生産指数は対前年比▲1.5%とわずかに低下、酢漬類の生産量は 11 万 2 千トンで、生産指数は対前年比▲6.7%とかなりの程度低下し、浅漬類の生産量は 15 万 1 千トンで、生産指数は対前年比▲1.5%とわずかに低下し、醤油漬類は 33 万 5 千トンで、生産指数は対前年比▲1.7%とわずかに低下した。

農産缶・びん詰はかなり大きく低下

農産缶・びん詰の生産量は 10 万 2 千トンで、生産指数は対前年比▲11.9%とかなり大きく低下した。内訳についてみると、野菜缶・びん詰が 3 万 7 千トンで、生産指数は対前年比▲7.0%とかなりの程度低下した。また、果実缶・びん詰は 3 万 6 千トンで、生産指数は対前年比▲20.3%と大幅に低下した、また、ジャム類の生産量は 2 万 8 千トンで、生産指数は対前年比▲.9%とかなりの程度低下した。

トマト加工品はやや低下

トマト加工品の生産量は 9 万 4 千トンで、生産指数は対前年比▲3.7%とやや低下した。ト

マトケチャップ、トマトピューレ及びその他トマトのいずれの生産量も前年を下回ったため全体でもやや低下した。

図 2-12 農産食料品の品目別生産指数の対前年増減率、寄与度

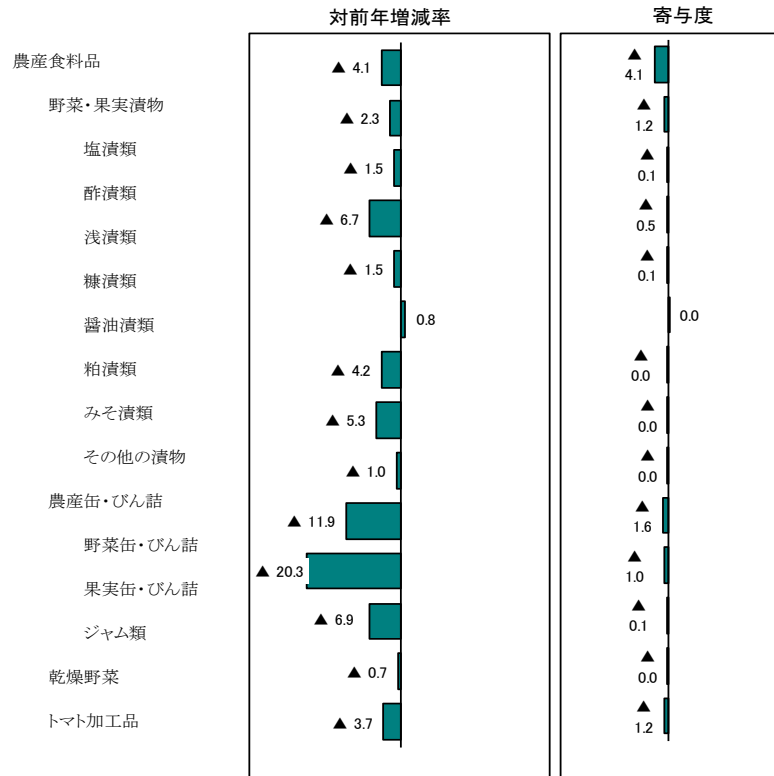


表 2-6 農産食料品の品目別生産指数の推移

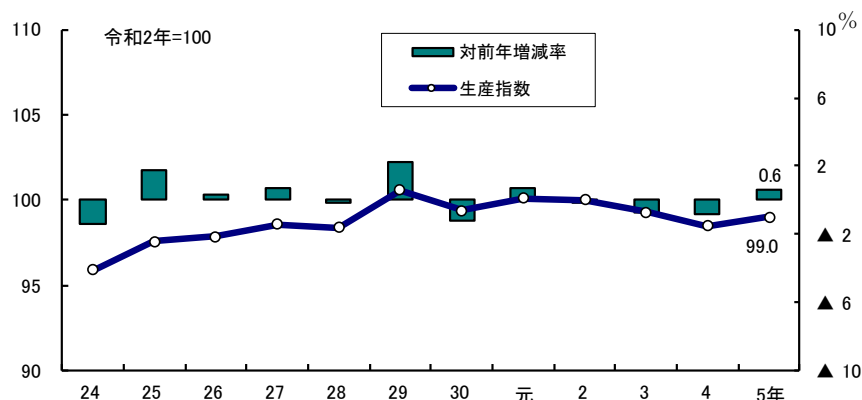
品目	年次 ウェイト (令和2年)	指数 (令和2年=100)				対前年増減率 (%)				寄与度 5年/4年
		令和2年	3年	4年	5年	2年	3年	4年	5年	
農産食料品	368.2	100.0	100.7	101.1	97.0	3.8	0.7	0.3	▲ 4.1	▲ 4.1
野菜・果実漬物	183.3	100.0	105.1	105.6	103.2	4.7	5.1	0.5	▲ 2.3	▲ 1.2
塩漬類	25.8	100.0	98.6	97.4	95.9	▲ 3.0	▲ 1.4	▲ 1.2	▲ 1.5	▲ 0.1
酢漬類	25.0	100.0	102.8	113.2	105.7	2.2	2.8	10.1	▲ 6.7	▲ 0.5
浅漬類	33.9	100.0	102.7	107.0	105.3	4.6	2.7	4.2	▲ 1.5	▲ 0.1
糠漬類	10.8	100.0	113.1	125.8	126.9	7.9	13.1	11.2	0.8	0.0
醤油漬類	78.8	100.0	107.8	101.9	100.2	8.6	7.8	▲ 5.4	▲ 1.7	▲ 0.4
粕漬類	3.9	100.0	103.0	105.9	101.5	▲ 10.8	3.0	2.8	▲ 4.2	▲ 0.0
みそ漬類	2.3	100.0	109.8	101.7	96.3	4.9	9.8	▲ 7.4	▲ 5.3	▲ 0.0
その他の漬物	2.8	100.0	105.8	125.9	124.6	13.8	5.8	19.0	▲ 1.0	▲ 0.0
農産缶・びん詰	54.4	100.0	96.8	94.6	83.4	▲ 1.1	▲ 3.2	▲ 2.3	▲ 11.9	▲ 1.6
野菜缶・びん詰	28.3	100.0	97.9	93.0	86.4	13.7	▲ 2.1	▲ 5.1	▲ 7.0	▲ 0.5
果実缶・びん詰	19.6	100.0	94.6	95.7	76.3	▲ 14.6	▲ 5.4	1.2	▲ 20.3	▲ 1.0
ジャム類	6.4	100.0	98.6	98.3	91.5	▲ 9.4	▲ 1.4	▲ 0.3	▲ 6.9	▲ 0.1
乾燥野菜	6.6	100.0	100.0	100.0	99.3	▲ 0.1	▲ 0.0	0.0	▲ 0.7	▲ 0.0
トマト加工品	123.9	100.0	96.1	97.2	93.6	5.0	▲ 3.9	1.2	▲ 3.7	▲ 1.2

4 製穀粉・同加工品

令和 5 年の製穀粉・同加工品の生産指数（令和 2 年=100、暫定値）は 99.0 で、対前年比 0.6%と前年並みとなった（図 2-13）。

対前年比を品目別にみると、製粉・穀粉はやや上昇したが、パンは前年並み、めん類はわずかに低下した。また、パン粉はわずかに上昇した。なお、対前年比に対する寄与を品目別にみると、製粉・穀粉及びパンはプラス、めん類はマイナスであった（図 2-14、表 2-7）。

図 2-13 製穀粉・同加工品の生産指数の推移



製粉・穀粉はやや上昇

製粉・穀粉の生産量は 43 万 8 千トンで、生産指数は対前年比 3.7%とやや上昇した。プレミックスが同▲3.3%でやや低下したものの、米穀粉が 4.9%とやや上昇した。

めん類はわずかに低下

めん類の小麦粉使用量は 149 万トンで、生産指数は対前年比▲1.7%とわずかに低下した。内訳についてみると、生めん類の小麦粉使用量は 78 万トンで、生産指数は対前年比 3.0%とやや上昇した。乾めん類は 18 万トンで、生産指数は対前年比▲1.6%とわずかに低下した。また、即席めん類は 36 万 8 千トンで、生産指数は対前年比▲5.5%とやや低下した。マカロニ類は 16 万 2 千トンで、生産指数は対前年比 1.6%とわずかに上昇した。

パンは前年並み

パンの小麦粉使用量は 118 万 3 千トンで、生産指数は対前年比 0.3%と前年並みとなった。内訳についてみると、食パンの小麦粉使用量は 53 万 7 千トンで、生産指数は対前年比▲1.5%とわずかに低下、菓子パンは 39 万 4 千トンで、生産指数は対前年比▲0.4%と前年並みとなった。学給パンは 2 万 3 千トンで、生産指数は対前年比 0.1%と前年並みとなった。一方、その他パンは 22 万 9 千トンで、生産指数は対前年比 1.8%とわずかに上昇した。

図 2-14 製穀粉・同加工品の品目別生産指数の対前年増減率、寄与度

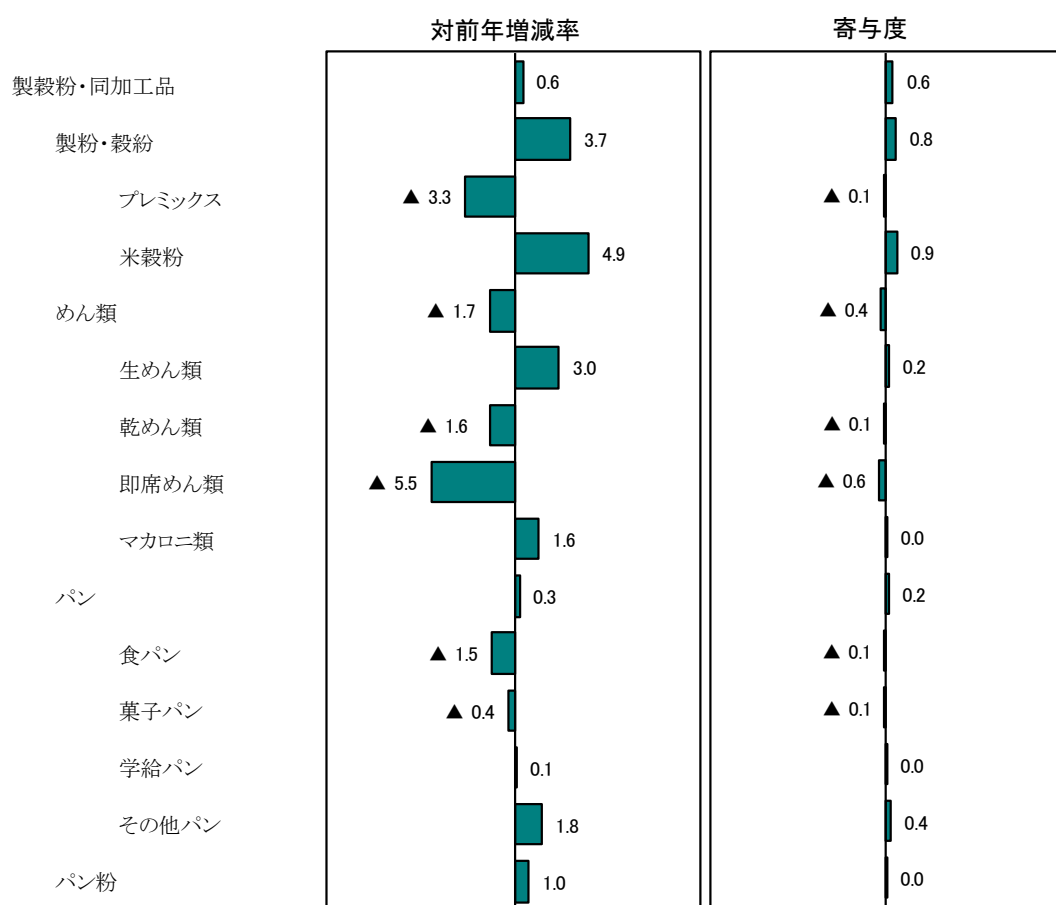


表 2-7 製穀粉・同加工品の品目別生産指数の推移

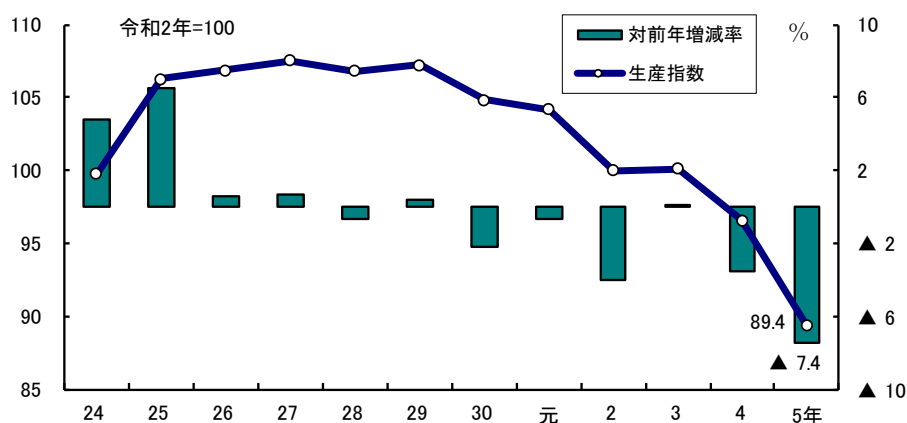
品 目	年 次 (令和2年)	指数 (令和2年=100)				対前年増減率 (%)				寄与度 5年/4年
		令和2年	3年	4年	5年	2年	3年	4年	5年	
製穀粉・同加工品	2,348.5	100.0	99.3	98.5	99.0	▲ 0.1	▲ 0.7	▲ 0.8	0.6	0.6
製粉・穀粉	476.6	100.0	94.2	101.0	104.7	▲ 0.6	▲ 5.8	7.2	3.7	0.8
プレミックス	71.4	100.0	99.2	97.8	94.6	▲ 3.4	▲ 0.8	▲ 1.4	▲ 3.3	▲ 0.1
米穀粉	405.2	100.0	93.3	101.5	106.5	▲ 0.1	▲ 6.7	8.8	4.9	0.9
めん類	572.0	100.0	98.1	96.5	94.9	1.7	▲ 1.9	▲ 1.6	▲ 1.7	▲ 0.4
生めん類	159.3	100.0	102.6	102.4	105.4	4.6	2.6	▲ 0.2	3.0	0.2
乾めん類	113.6	100.0	96.9	93.0	91.5	5.6	▲ 3.1	▲ 4.1	▲ 1.6	▲ 0.1
即席めん類	250.0	100.0	96.4	94.6	89.4	▲ 2.5	▲ 3.6	▲ 1.8	▲ 5.5	▲ 0.6
マカロニ類	49.0	100.0	94.8	95.2	96.7	5.7	▲ 5.2	0.4	1.6	0.0
パン	1,286.1	100.0	101.7	98.4	98.7	▲ 0.7	1.7	▲ 3.3	0.3	0.2
食パン	173.3	100.0	95.2	89.8	88.4	1.8	▲ 4.8	▲ 5.7	▲ 1.5	▲ 0.1
菓子パン	513.8	100.0	100.4	95.4	95.0	1.8	0.4	▲ 4.9	▲ 0.4	▲ 0.1
学給パン	156.3	100.0	115.5	109.3	109.4	▲ 14.6	15.5	▲ 5.4	0.1	0.0
その他パン	442.8	100.0	100.9	101.3	103.2	1.4	0.9	0.5	1.8	0.4
パン粉	13.8	100.0	102.2	101.7	102.7	▲ 3.8	2.2	▲ 0.5	1.0	0.0

5 食用油・同加工品

令和 5 年の食用油・同加工品の生産指数（令和 2 年=100、暫定値）は 89.4 で、対前年比▲7.4%とかなりの程度低下した。なお、近年の推移は、平成 25 年から平成 29 年にかけて横ばいであったが、平成 30 年以降は低下傾向で推移している（図 2-15）。

対前年比を品目別にみると、植物油脂はやや低下し、加工油脂はかなりの程度低下した。なお、対前年比に対する寄与を品目別にみると、植物油脂及び加工油脂はいずれもマイナスであった（図 2-16、表 2-8）。

図 2-15 食用油・同加工品の生産指数の推移



植物油脂はやや低下、加工油脂はかなりの程度低下

植物油脂の生産量は 156 万トンで、生産指数は対前年比▲4.4%とやや低下した。加工油脂の生産量は 56 万 9 千トンで、生産指数は対前年比▲9.0%とかなりの程度低下した。加工油脂について内訳をみると、マーガリンは 14 万 1 千トンで、生産指数は対前年比 8.0%とかなりの程度上昇した。一方、ショートニングは 17 万 3 千トンで、生産指数は対前年比▲3.6%とやや低下した。

図 2-16 食用油・同加工品の品目別生産指数の対前年増減率、寄与度

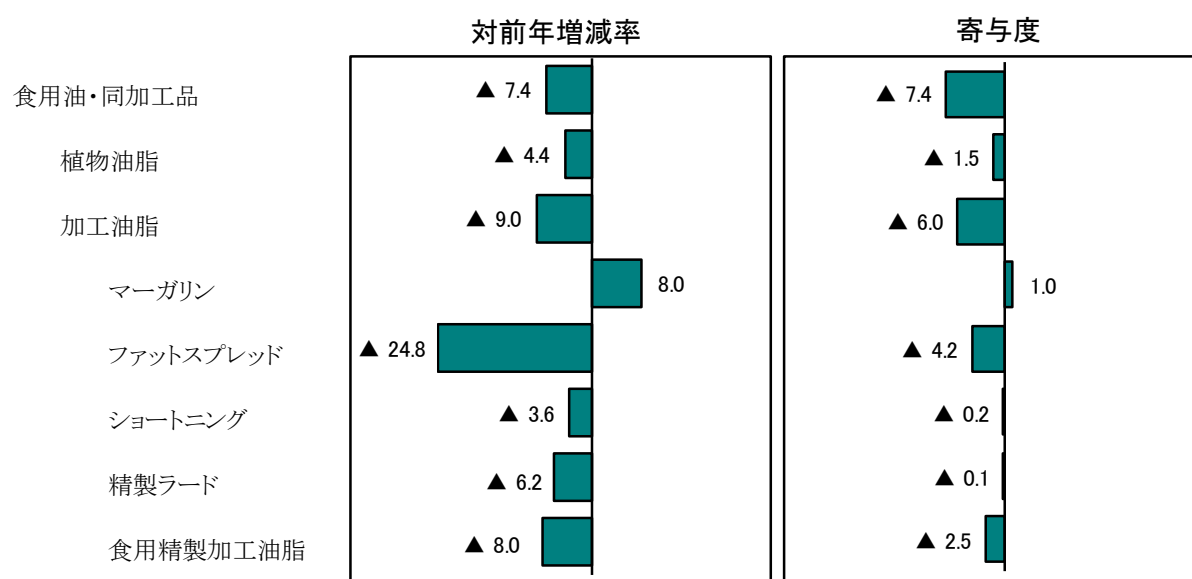


表 2-8 食用油・同加工品の品目別生産指数の推移

年次 品目	ウェイト (令和2年)	指数 (令和2年=100)				対前年増減率 (%)				寄与度 5年/4年
		令和2年	3年	4年	5年	2年	3年	4年	5年	
食用油・同加工品	379.2	100.0	100.1	96.5	89.4	▲ 4.0	0.1	▲ 3.5	▲ 7.4	▲ 7.4
植物油脂	122.4	100.0	102.7	100.1	95.7	▲ 4.7	2.7	▲ 2.6	▲ 4.4	▲ 1.5
加工油脂	256.9	100.0	98.9	94.9	86.4	▲ 3.7	▲ 1.1	▲ 4.0	▲ 9.0	▲ 6.0
マーガリン	47.5	100.0	96.2	91.8	99.2	▲ 6.2	▲ 3.8	▲ 4.6	8.0	1.0
ファットスプレッド	66.7	100.0	96.2	91.7	68.9	▲ 6.1	▲ 3.8	▲ 4.6	▲ 24.8	▲ 4.2
ショートニング	21.6	100.0	103.8	87.5	84.4	▲ 7.0	3.8	▲ 15.7	▲ 3.6	▲ 0.2
精製ラード	7.3	100.0	94.7	105.9	99.4	▲ 3.8	▲ 5.3	11.8	▲ 6.2	▲ 0.1
食用精製加工油脂	113.7	100.0	100.8	98.7	90.8	▲ 0.4	0.8	▲ 2.1	▲ 8.0	▲ 2.5

6 砂糖

令和 5 年の砂糖の生産指数（令和 2 年=100、一部推定を含む暫定値）は 97.7 で、対前年比 ▲6.3%とかなりの程度低下した。近年は低下傾向で推移していたが、2 年は上昇に転じたが 5 年に再び減少した（図 2-17）。

対前年比を品目別にみると、氷糖がかなりの程度上昇した。一方、中白及び三温は大幅に低下し、白双、中双及び角糖はかなり大きく低下し、上白はかなりの程度低下し、グラニュー糖及び液等がやや低下した。なお、対前年比に対する寄与を品目別にみると、氷糖のみプラスであり、グラニュー糖、白双、中双、上白、三温及び液糖はマイナスであった（図 2-18、表 2-9）。

図 2-17 砂糖の生産指数の推移

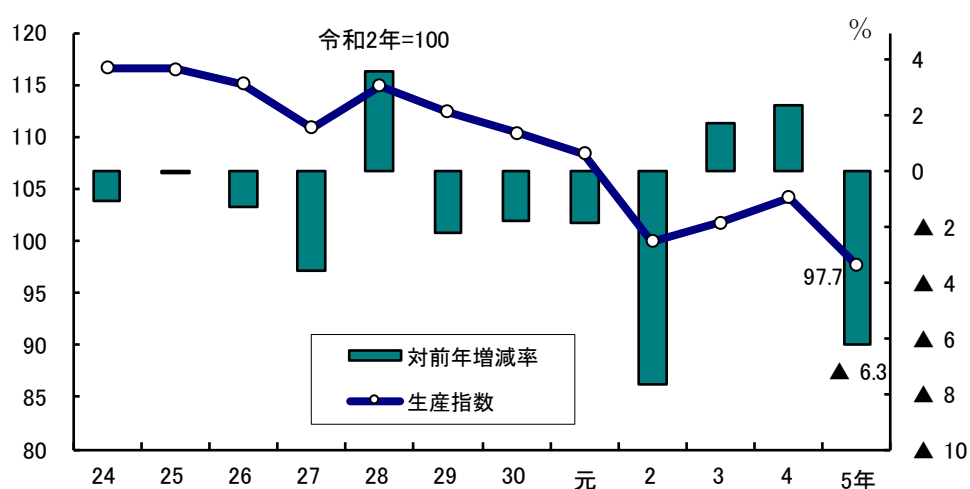


図 2-18 砂糖の品目別生産指数の対前年増減率、寄与度

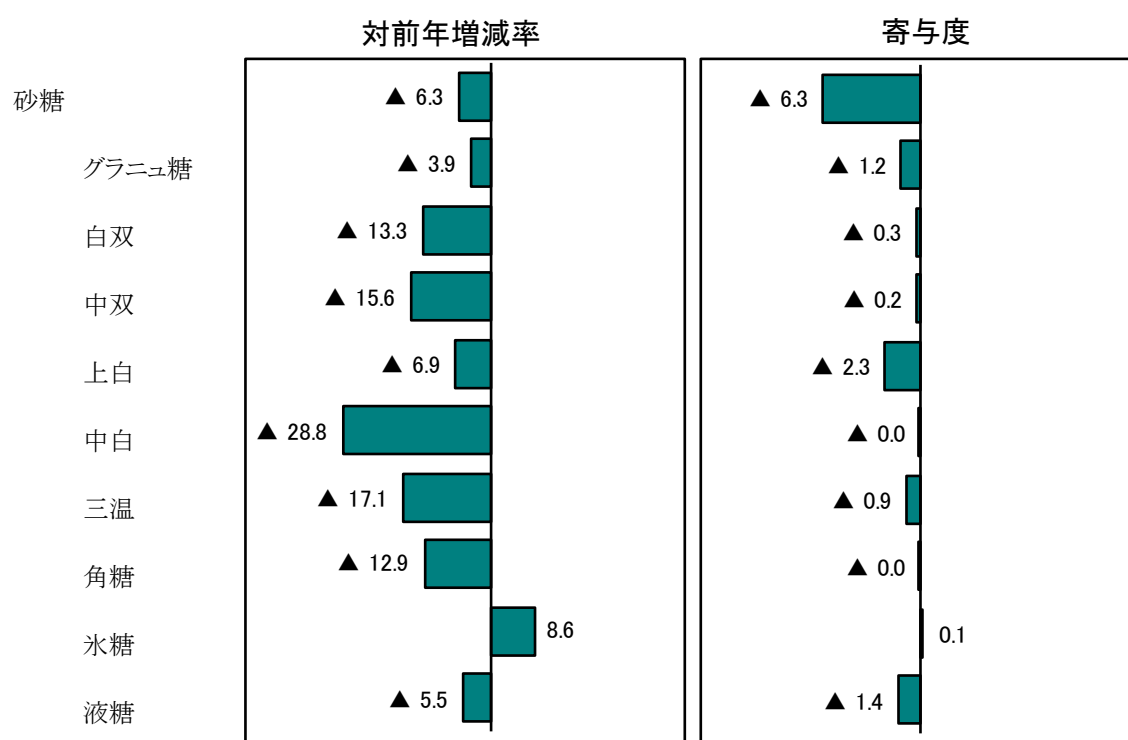


表 2-9 砂糖の品目別生産指数の推移

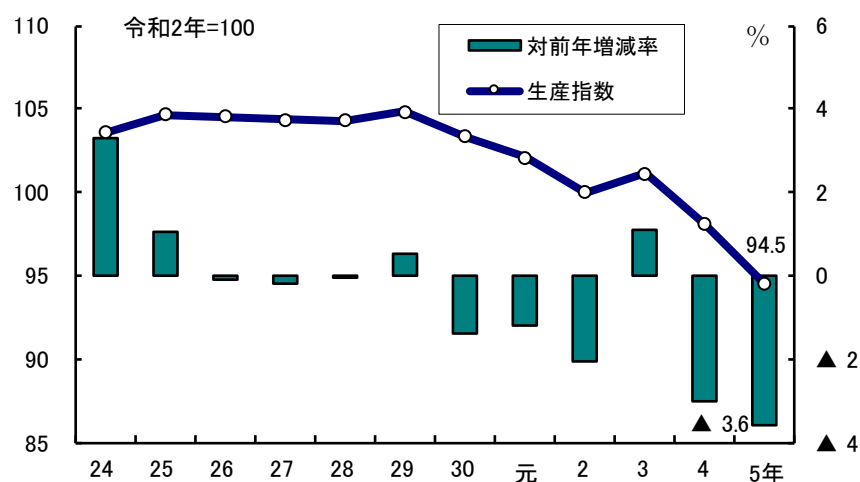
品 目	年 次 (令和2年)	指数 (令和2年=100)				対前年増減率 (%)				寄与度 5年/4年
		令和2年	3年	4年	5年	2年	3年	4年	5年	
砂糖	15.8	100.0	101.8	104.2	97.7	▲ 7.7	1.8	2.4	▲ 6.3	▲ 6.3
グラニュー糖	5.0	100.0	99.5	104.2	100.1	▲ 8.0	▲ 0.5	4.8	▲ 3.9	▲ 1.2
白双	0.3	100.0	104.2	114.8	99.5	▲ 22.6	4.2	10.1	▲ 13.3	▲ 0.3
中双	0.3	100.0	90.5	93.5	78.9	▲ 6.3	▲ 9.5	3.3	▲ 15.6	▲ 0.2
上白	5.3	100.0	100.5	100.7	93.7	▲ 9.5	0.5	0.2	▲ 6.9	▲ 2.3
中白	0.0	100.0	102.1	109.3	77.9	▲ 9.7	2.1	7.0	▲ 28.8	▲ 0.0
三温	0.9	100.0	103.3	99.6	82.6	▲ 2.5	3.3	▲ 3.5	▲ 17.1	▲ 0.9
角糖	0.0	100.0	74.0	70.9	61.8	▲ 12.9	▲ 26.0	▲ 4.1	▲ 12.9	▲ 0.0
氷糖	0.1	100.0	135.7	136.6	148.3	▲ 32.8	35.7	0.7	8.6	0.1
液糖	4.0	100.0	105.9	109.2	103.2	▲ 3.9	5.9	3.1	▲ 5.5	▲ 1.4

7 調味料

令和 5 年の調味料の生産指数（令和 2 年=100、暫定値）は 94.5 で、対前年比▲3.6%とやや低下した。なお、近年の推移は、長らく低下傾向で推移していたのが、3 年は上昇に転じたが、4 年以降に再び低下している（図 2-19）。

対前年比を品目別にみると、味噌はわずかに低下し、しょうゆ等はやや低下した。また、マヨネーズはわずかに低下し、ドレッシングはやや低下した。なお、対前年比に対する寄与を品目別にみると、味噌、しょうゆ等、マヨネーズ及びドレッシングのいずれもはマイナスであった（図 2-20、表 2-10）。

図 2-19 調味料の生産指数の推移



味噌はわずかに低下、しょうゆ等やや低下

味噌の生産量は 45 万 8 千トンで、生産指数は対前年比▲2.2%とわずかに低下した。

しょうゆ等の出荷量は 98 万 6 千 kl で、生産指数は対前年比▲3.3%とやや低下した。

マヨネーズはわずかに低下、ドレッシングはやや低下

マヨネーズの生産量は 21 万 3 千トンで、生産指数は対前年比▲2.0%とわずかに低下した。また、ドレッシングの生産量は 16 万 9 千トンで、生産指数は対前年比▲4.4%とやや低下した。

図 2-20 調味料の品目別生産指数の対前年増減率、寄与度

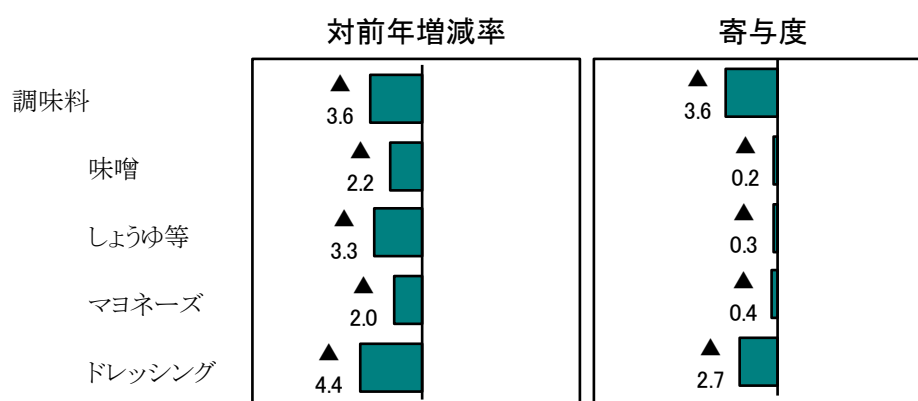


表 2-10 調味料の品目別生産指数の推移

年次 品目	ウェイト (令和2年)	指数 (令和2年=100)				対前年増減率 (%)				寄与度 5年/4年
		令和2年	3年	4年	5年	2年	3年	4年	5年	
調味料	783.5	100.0	101.1	98.0	94.5	▲ 2.0	1.1	▲ 3.0	▲ 3.6	▲ 3.6
味噌	76.8	100.0	97.3	98.6	96.5	▲ 1.4	▲ 2.7	1.3	▲ 2.2	▲ 0.2
しょうゆ等	77.2	100.0	100.6	100.1	96.8	▲ 4.3	0.6	▲ 0.4	▲ 3.3	▲ 0.3
マヨネーズ	144.6	100.0	100.4	100.0	98.0	▲ 3.5	0.4	▲ 0.4	▲ 2.0	▲ 0.4
ドレッシング	484.9	100.0	102.0	97.1	92.8	▲ 1.3	2.0	▲ 4.8	▲ 4.4	▲ 2.7

8 飲料

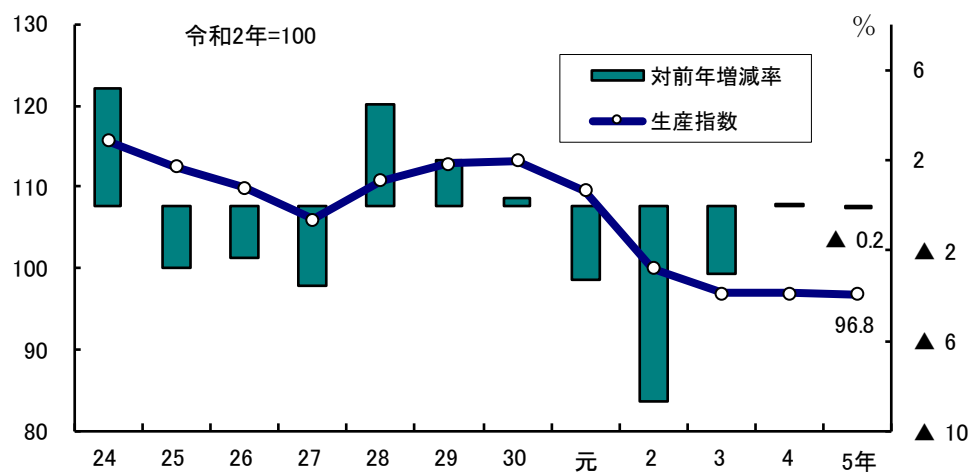
令和5年の飲料の生産指数（令和2年=100、暫定値）は96.8で、対前年比0.2%と前年並みとなった。なお、令和元年以降低下傾向で推移していたが、3年以降は横ばいで推移している（図2-21）。

対前年比を品目別にみると、炭酸飲料及びコーヒー・茶系飲料は前年並み、果実飲料はわずかに低下した。一方、トマト飲料はやや上昇した。

コーヒー・茶系飲料は、令和2年には感染症の影響により、テレワークが定着し、コンビニ等によるビジネス需要が大きく減少したが、3年以降回復の兆しがみられる。

なお、対前年比に対する寄与を品目別にみると、トマト飲料はプラスであったが、炭酸飲料、果実飲料及びコーヒー・茶系飲料はマイナスであった（図2-22、表2-11）。

図2-21 飲料の生産指数の推移



炭酸飲料は前年並み、果実飲料はわずかに低下

炭酸飲料の生産量は177万4千klで、生産指数は対前年比▲0.8%と前年並みとなった。果実飲料は生産量が56万6千klで、生産指数は対前年比▲1.0%とわずかに低下した。

コーヒー・茶系飲料は前年並み

コーヒー・茶系飲料の生産量は923万4千klで、生産指数は対前年比▲0.5%と前年並みとなった。

トマト飲料はやや上昇

トマト飲料の生産量は11万2千klで、生産指数は対前年比3.5%とやや上昇した。

図 2-22 飲料の品目別生産指数の対前年増減率、寄与度

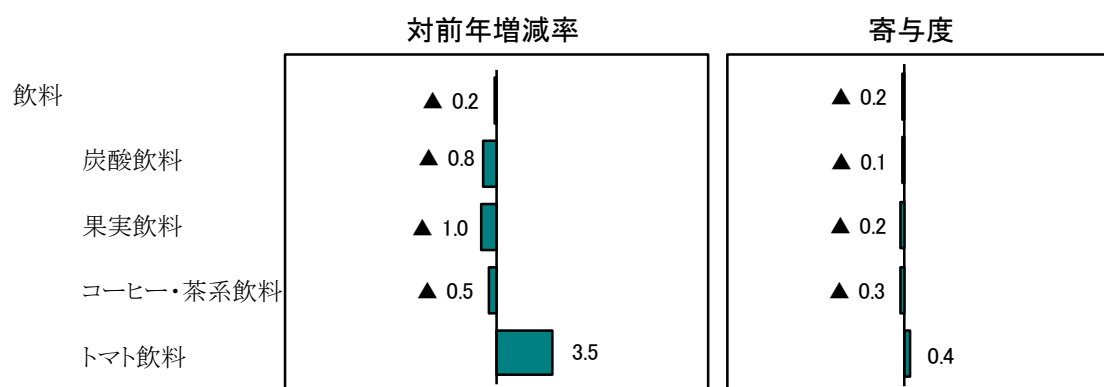


表 2-11 飲料の品目別生産指数の推移

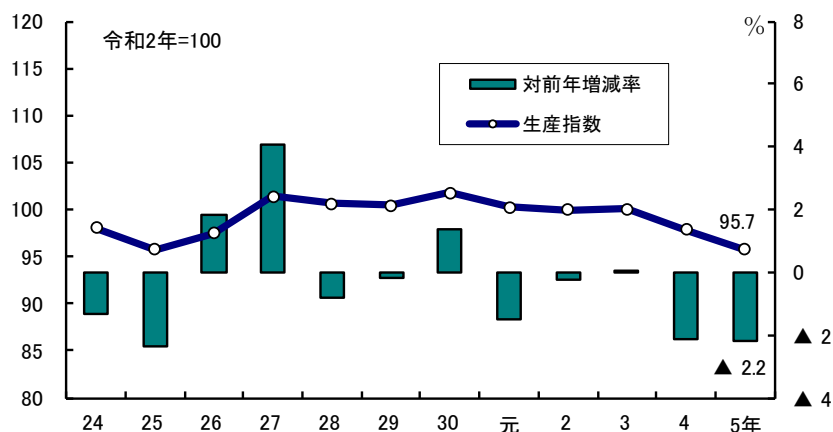
品 目	年 次 ウエイト (令和2年)	指数 (令和2年=100)				対前年増減率 (%)				寄与度 5年/4年
		令和2年	3年	4年	5年	2年	3年	4年	5年	
飲料	990.9	100.0	96.9	97.0	96.8	▲ 8.7	▲ 3.1	0.1	▲ 0.2	▲ 0.2
炭酸飲料	177.6	100.0	91.5	88.6	87.9	▲ 2.9	▲ 8.5	▲ 3.1	▲ 0.8	▲ 0.1
果実飲料	200.1	100.0	92.7	93.6	92.6	▲ 16.0	▲ 7.3	0.9	▲ 1.0	▲ 0.2
コーヒー・茶系飲料	497.8	100.0	100.5	99.9	99.4	▲ 8.4	0.5	▲ 0.6	▲ 0.5	▲ 0.3
トマト飲料	115.3	100.0	97.4	103.2	106.8	▲ 4.6	▲ 2.6	6.0	3.5	0.4

9 菓子

令和5年の菓子の生産指数（令和2年=100、暫定値）は95.7で、対前年比▲2.2%とわずかに低下した。なお、近年の推移は、平成27年以降横ばい傾向となっていたが、令和3年以降は減少傾向で推移している（図2-23）。

対前年比を品目別にみると、ビスケットは対前年比で前年並み、米菓はやや低下した。なお、対前年比に対する寄与については、ビスケット及び米菓ともにマイナスであった（図2-24、表2-12）。

図2-23 菓子の生産指数の推移



ビスケットは前年並み、米菓はやや低下

ビスケットの生産量は24万8千トンで、生産指数は対前年比▲0.8%と前年並みとなった。米菓の生産量は20万4千トンで、生産指数は対前年比▲4.0%とやや低下した。

図2-24 菓子の品目別生産指数の対前年増減率、寄与度

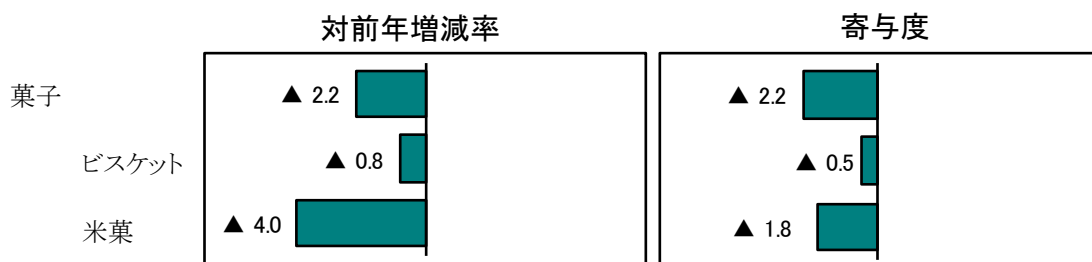


表1-12 菓子の品目別生産指数の推移

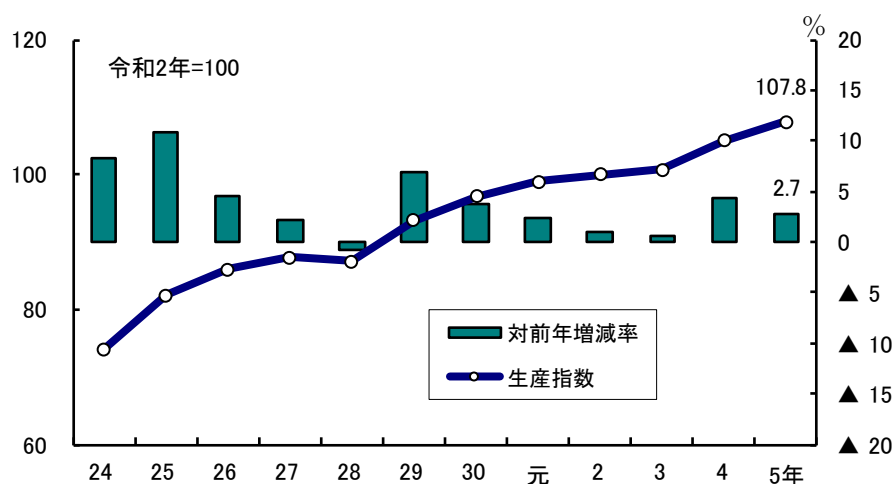
品目	年次 ウェイト (令和2年)	指数 (令和2年=100)				対前年増減率 (%)				寄与度
		令和2年	3年	4年	5年	2年	3年	4年	5年	5年/4年
菓子	440.7	100.0	100.0	97.9	95.7	▲ 0.3	0.0	▲ 2.1	▲ 2.2	▲ 2.2
ビスケット	246.8	100.0	101.7	98.7	97.9	0.4	1.7	▲ 3.0	▲ 0.8	▲ 0.5
米菓	193.9	100.0	97.8	96.8	92.9	▲ 1.1	▲ 2.2	▲ 1.0	▲ 4.0	▲ 1.8

10 調理食品

令和5年の調理食品の生産指数（令和2年=100、暫定値）は107.8で、対前年比2.7%とわずかに上昇した。なお、近年の推移は、平成23年の東日本大震災以降、備蓄需要の高まりや簡便化志向のニーズから、無菌包装米飯や冷凍米飯の市場拡大が続いてきている（図2-25）。

対前年比を品目別にみると、加工米飯がわずかに上昇した。また、調理缶・レトルトパウチはやや上昇した。なお、対前年比に対する寄与を品目別にみると、加工米飯及び調理缶・レトルトパウチのいずれもプラスであった（図2-26、表2-13）。

図2-25 調理食品の生産指数の推移



加工米飯はわずかに上昇

加工米飯の生産量は44万トンで、生産指数は対前年比2.6%とわずかに上昇した。加工米飯のなかでは無菌包装米飯については、手軽に食べられる簡便化志向のニーズに適していることや備蓄用から日常食としての位置づけが定着したこと等により生産量が増加傾向にあったが、令和5年は減少に転じている。一方、冷凍米飯については令和4年以降生産量が増加傾向にあるが、その背景として、かつての冷凍食品より格段においしくなったことや、冷凍食品専門店が開店したり等消費者への訴求効果が高まったことが考えられる。

カレーはやや上昇、その他の調理食品はわずかに上昇

調理缶・レトルトパウチの生産量は43万5千トンで、生産指数は対前年比3.5%とやや上昇した。内訳についてみると、カレーの生産量は16万8千トンで、生産指数は対前年比4.8%とやや上昇した。また、その他の調理食品の生産量は26万7千トンで、生産指数は対前年比2.7%とわずかに上昇した。

図 2-26 調理食品の品目別生産指数の対前年増減率、寄与度

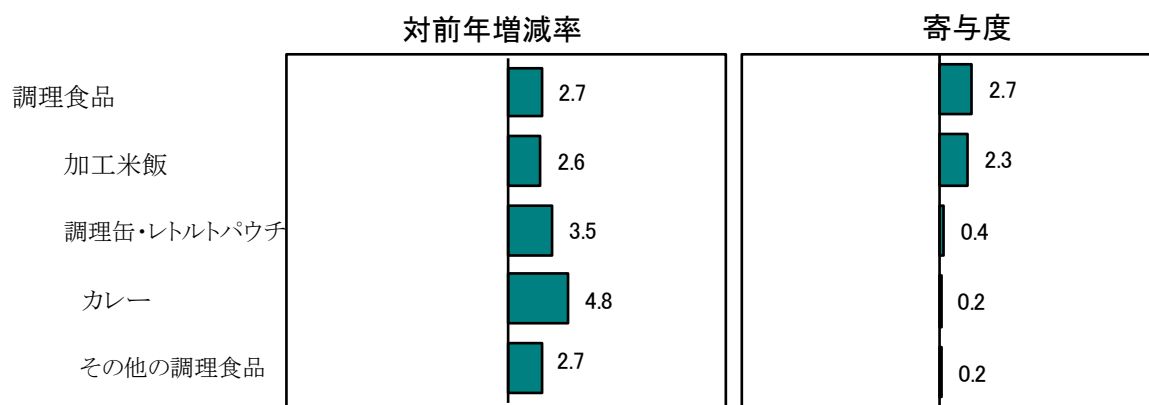


表 2-13 調理食品の品目別生産指数の推移

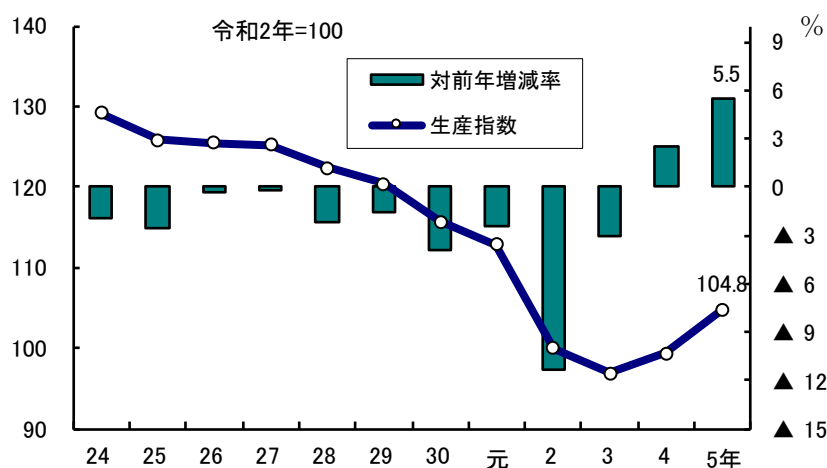
年 次 品 目	ウェイト (令和2年)	指数 (令和2年=100)				対前年増減率 (%)				寄与度 5年/4年
		令和2年	3年	4年	5年	2年	3年	4年	5年	
調理食品	1,166.4	100.0	100.7	105.0	107.8	1.0	0.7	4.3	2.7	2.7
加工米飯	1,035.3	100.0	101.1	106.0	108.7	1.5	1.1	4.9	2.6	2.3
調理缶・レトルトパウチ	131.1	100.0	97.6	97.0	100.4	▲ 2.6	▲ 2.4	▲ 0.6	3.5	0.4
カレー	50.9	100.0	96.9	95.5	100.1	▲ 8.9	▲ 3.1	▲ 1.5	4.8	0.2
その他の調理食品	80.2	100.0	98.0	97.9	100.6	2.0	▲ 2.0	▲ 0.0	2.7	0.2

11 酒類

令和5年の酒類の生産指数（令和2年=100、一部推定を含む暫定値）は104.8で、対前年比5.5%とやや上昇した。令和2年から続く感染症対策による自治体等からの飲食店等への時短・休業要請の影響が大きいと見受けられる。ただし、低下傾向には歯止めがかかったように見受けられる（図2-27）。

対前年比を品目別にみると、雑酒が対前年比で大幅に上昇し、清酒及びウイスキーはかなりの程度上昇し、ビールはやや上昇し、スピリッツはわずかに上昇した。一方、リキュールが対前年比で大幅に低下し、合成清酒、焼酎及、みりん及びブランデーはかなりの程度低下し、果実酒がわずかに低下した。なお、対前年比に対する寄与を品目別にみると、清酒、ビール、ウイスキー、スピリッツ及び雑酒はプラス、焼酎、みりん及びリキュールはマイナスであった（図2-28、表2-14）。

図2-27 酒類の生産指数の推移



ビールはやや上昇

ビールの出荷量（1～11月）は202万5千klで、生産指数は対前年比4.7%とやや上昇した。令和2年から続く感染症対策のための飲食店への時短・休業要請が緩和されたことの影響によるものと見受けられる。

焼酎はかなりの程度低下、ウイスキーはかなりの程度上昇

焼酎の出荷量（1～11月）は576千klで、生産指数は対前年比▲7.1%とかなりの程度低下した。一方、ウイスキーについては出荷量（1～11月）が15万klで、生産指数は対前年比10.1%とかなりの程度上昇した。

スピリッツはわずかに上昇、リキュールは大幅に低下

スピリッツの出荷量（1～11月）は92万5千klで、生産指数は対前年比2.6%とわずかに

上昇した。一方、リキュールの出荷量（1～11月）は174万9千klで、生産指数は対前年比▲16.4%と大幅に低下した。

図 2-28 酒類の品目別生産指数の対前年増減率、寄与度

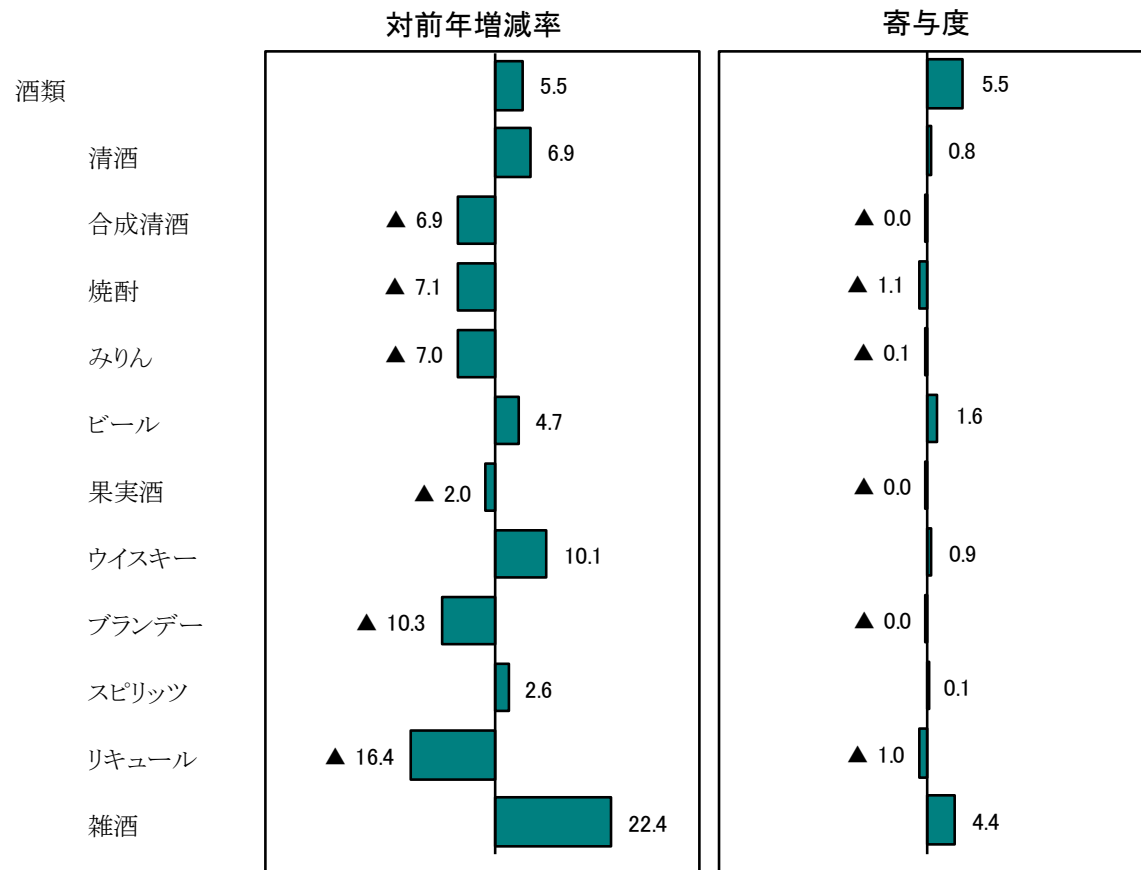


表 2-14 酒類の品目別生産指数の推移

品 目	年 次 (令和2年)	ウェイト (令和2年)	指数（令和2年=100）				対前年増減率（%）				寄与度 5年/4年
			令和2年	3年	4年	5年	2年	3年	4年	5年	
酒類	1,553.9		100.0	96.9	99.3	104.8	▲ 11.4	▲ 3.1	2.5	5.5	5.5
清酒	195.0		100.0	96.6	88.8	95.0	▲ 10.4	▲ 3.4	▲ 8.1	6.9	0.8
合成清酒	3.5		100.0	91.7	94.7	88.1	▲ 19.0	▲ 8.3	3.3	▲ 6.9	▲ 0.0
焼酎	239.6		100.0	94.0	94.8	88.0	▲ 3.8	▲ 6.0	0.8	▲ 7.1	▲ 1.1
みりん	15.8		100.0	101.4	104.7	97.3	▲ 8.1	1.4	3.2	▲ 7.0	▲ 0.1
ビール	449.6		100.0	101.1	114.6	119.9	▲ 22.8	1.1	13.4	4.7	1.6
果実酒	33.2		100.0	93.7	86.6	84.8	6.4	▲ 6.3	▲ 7.7	▲ 2.0	▲ 0.0
ウイスキー	126.2		100.0	93.4	106.6	117.3	▲ 15.5	▲ 6.6	14.1	10.1	0.9
ブランデー	0.1		100.0	95.9	101.5	91.0	▲ 6.4	▲ 4.1	5.9	▲ 10.3	▲ 0.0
スピリッツ	38.1		100.0	111.7	110.5	113.4	9.3	11.7	▲ 1.1	2.6	0.1
リキュール	110.1		100.0	93.0	88.7	74.2	7.8	▲ 7.0	▲ 4.6	▲ 16.4	▲ 1.0
雑酒	342.7		100.0	94.6	89.1	109.0	▲ 6.0	▲ 5.4	▲ 5.9	22.4	4.4

(参考) 主要品目の生産量の推移 (平成24年～令和5年)

